

授業改善のポイント

(その2)

～ 見通す・振り返る学習活動① ～

英語科における「見通したり振り返ったりする学習活動」は
どのようなものにしたらよいですか？



生徒が主体的に学習に取り組むためには、生徒が毎時の授業で見通しをもち、自分の学習を振り返ることが大切です。



英語における「見通す・振り返る」学習活動はどのようなものか、紹介します。

今回は、「見通す」学習活動例について紹介します。

「見通す」学習活動例

1 単元の1時間目において ~ 単元の「見通し」をもたせる ~

◎ 単元末に行う表現活動等の模範を指導者が見せる。

教師自身が、単元を通して、どのような力をどの程度身に付けさせるのかを明らかにして授業に臨むことが、まず大切な点です。教科書通りに指導をしていたら、たまたま〇〇な力がついた、ではなく、「〇〇の力を身に付ける」「〇〇できるよう^にさせる」という目標をもって、単元全体を通して指導し、目標を達成させることが大切です。

単元の1時間目には、その目標となる具体的な姿を生徒達に示したいものです。単元末には、単元で学習する表現等を活用する言語活動を設定することが多いと思いますが、その活動の模範例を指導者が見せたいものです。

次のようなねらいがあります。



「CAN-DO リスト」活用の目的と同じです。

- ・ 単元を通して「どのようなことができるようになるのか」という具体的なイメージを生徒と共有する。

併せて、単元終末までの学習活動を生徒に理解させることも大切だと思います。そうすることで、生徒が単元の各活動の意味付けを理解し、単元での各活動に目的をもち、より積極的に取り組むようになると思います。また、家庭学習にも意欲的に取り組むことになるでしょう。

2 毎時間の開始時において ~ 1時間の「見通し」をもたせる ~

- ◎ 本時のねらいを生徒とともに**具体的に**確認する。

本時の「めあて」については、このように生徒に提示することが多いと思います。

Today's CAN-DO
You can make a speech about your dream

生徒により意欲的に学習活動に取り組ませるためには、「夢についてスピーチすることができるようになる」という本時の「めあて」について、より具体的に考えさせることが大切です。そして、それを、教師と生徒で共有し、活動の中で意識させて取り組ませたいところです。

具体化する

例)

- ・”Opening-Body-Closing” の文章構成で話す。
- ・(原稿を読むのではなく) メモをもとに話す。
- ・はっきり相手に伝わるように発表する。

特に伝えたいところは繰り返す。 等



©fumira

この具体化されたものについては、生徒の実態や授業のねらいに応じて、生徒全員に同じ内容を意識させたり、生徒個々に応じたものを意識させたりするとよいでしょう。

単元の1時間目と毎時間の授業開始時における「見通す」学習活動例について紹介しました。各校でも、これらを参考に、生徒に「見通し」をもたせ、意欲的に活動に参加できるよう工夫してほしいと思います。